

総合的な学習の時間－１１（第３学年） 聞き取った内容を再構成して論文にまとめる事例
【学習活動の概要】

1 単元名 地域の人からの学びを論文にまとめよう		
2 単元の目標 地域における日常の暮らしや問題意識を基に地域を支える人達の仕事や生き方を尋ね、それを聞き書きとして表現する学習を通して、自分の住む地域の在り方や将来の生き方を考える。		
3 評価規準 【課題設定力】 ・地域の人々の生き方や多様な資料を基に、自らの追究する課題を設定している。 【読解・表現力】 ・話し手のものの見方や感じ方・考え方、意図を、その表現方法や言葉遣いに注意して聞き取るとともに、それを効果的に書き表している。 【将来を考える力】 ・調査したことを基に、自分の住む地域の在り方や現在及び将来の自分の生き方を考えている。		
4 題材 本単元では、地域を支える人達の仕事や生き方、地域社会の問題などに目を向け、そのことについて調査したり文章化したりすることを通して、自分自身の在り方や自己の将来の生き方を考える学習を展開していく。 地域に住み、10年後、20年後の姿を考えて仕事や活動をしている人、地域の活性化に向けて貢献しようとしている人がいる。そうした人を尋ね、実際にその思いを聞き、文章に表していく。その過程を一人一人が丁寧に振り返りながら表現することで、現在の自分自身の在り方やこれからの地域における自分の生き方などを考えるきっかけとしたい。そのためにも、地域に対する自分の課題を明らかにし、今一番考えたい課題が何かを学ぶように学習活動を展開していきたい。		
5 主な学習活動		
(1) 単元の展開（全29時間）		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	○学習活動のテーマや目的を明らかにし、訪問相手等を決定していく。(5) ・前年度の学習活動の様子や文章化された作品を読み、活動の方向性をイメージする。 ・グループになって意見交換しながら、課題を明らかにする。 ・課題に応じて訪問先や訪問相手を検討する。 ・決定した訪問先に手紙を出し訪問の依頼をする。	・前年度の作品を丁寧に読み取り、学習活動の価値や方向性を理解する。 ・地域の問題や関心事をカードに表し、整理する。 ・正しい手紙の書き方を指導する。
第2次	○実際に聞き取り調査を行いながら、地域に生きる人の思いや考えをつかみ取る。(8) ・インタビュー方法や聞き取りの記録方法を学ぶ。 ・訪問しながら聞き取り調査を行う	・相手に応じた質問の仕方や場に応じた話し方などを、実際の場面で活用するようにする。 ・聞き取った内容をメモする手法を身に付ける。
第3次	○聞き取った内容を整理したり、分析したりして内容をまとめる。(10) ・聞き取った内容の類型化を行う。 ・聞き取った内容の現状把握と未来志向での分析の2視点を行う。 ・聞き取った情報を論文としてまとめる。 (本時8/10)	・聞き取った内容はカードにして類型化する。 ・内容の分析はマトリックス表を活用する。 ・論文にまとめる際には、プロットを全体を構成しながらまとめる。
第4次	○論文にまとめた地域の人からの学び、地域への思いを発表する。(6) ・グループごとに発表会の準備をする。 ・発表会を開催し、その成果を振り返る。	・論文発表会を目的、相手、内容に合わせて計画し学習の深まりを期待する。 ・発表会の様子をアンケートで集約し、成果やその広がりを把握する。
(2) 本時の学習 聞き取った内容を整理したり分析したりして内容をまとめ、相手に分かりやすいよう論理的なまとまりのある文章に構成し直す。		
①自分の論文の目的や論文で主張したい内容を確認する。 ②出会で学んだことや問題意識の変容を意識して論文の「まとめ」を文章化する。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。」と示している。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。そのためには、分析とは何をすることなのか具体的なイメージをもつことが必要となる。例えば、集めた情報を共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられる。

また、言語によりまとめたり分析したりする学習活動では、分析したことを論理的な文章やレポートに書き表したり、スピーチや説明をしたりすることなどが考えられる。文章やレポートにまとめることは、それまでの学習活動を振り返り、体験したことや収集した情報と既存の知識とを関連させ、自分の考えとして整理することにつながる。

それらの報告の場として、学級全体で学習成果を共有する場面が想定される。参加者全員の前で行うプレゼンテーションや目の前の相手に個別に行うポスターセッションなど、多様な形式を目的に応じて設定することが考えられる。さらには、最終的に卒業論文としてまとめ上げ、自分の考えを明らかにすることが考えられる。

【言語活動の充実の工夫】－聞き取った内容を再構成して論文にまとめる－

自分の問題意識や出会った人から学んだことを論文としてまとめていく。聞き取った内容を類型化して整理しプロットにしたり、現状把握と未来指向とに分けて分析したのちに自分の考えを明らかにしたりしていく。次の手順で論文の作成を行う。

- ①聞き取り内容の類型化を基にプロットを立てる。
- ②プロットを基にして文章化する。(1回目)
- ③文章化から再質問したいことを明らかにする。
- ③第二次取材を行う。
- ④第二次取材の内容を論文に書き加える(2回目)。
- ⑤出会で学んだことや問題意識の変容を意識しながら論文の「まとめ」を文章化する(3回目)。
- ⑥目的や内容を確認しながら論文全体を校正する。

自分を信じて －Aさんの生き方から学ぶ－ 三年 女子

1. はじめに

皆さんは、町での暮らしをどう感じていますか。こんな田舎じゃなくて、もっと都会に出たいと思っていますか。それとも、ここに一生住んでいたいと思われませんか。(以下略)

(2～7は省略)

8. まとめ (Aさんの生き方から学んだこと)

私は今まで、この町をただの田舎としか思っていませんでした。そして、町のことを知ろうともしませんでした。

今回、Aさんの話を聞くことができて本当に良かったと思います。今でも都会へ出ていきたいという気持ちは変わりません。しかし、町のことをしっかりと見つめ、自分の故郷として思いに留めることができました。

私たちの町は、表面的に見ると、「落ち着くところ」「ふるさと」など、それだけにしか感じられないところかもしれません。しかし実際に住んでいると、それだけではないことに気がきます。町には日本中、世界中の人々が失いかけているものが残っているということ話をいただき、私はそのことに気がきました。町では当たり前なのが、町の外へ出てみるととても恵まれたことなのかもしれないと思えるようになりました。

例えば、Aさんのお話の中にあつた茅葺きの家が、その例です。茅葺きの家に住むこと、そして火をたくこと……。病気になりにくかったり、年を取っても元気いっぱい過ごせたり……。そうした私たちの町に残っていることは、人間として一番大切なことです。そんな、人間が必要としているものが町にはあるのです。町に対する考え方や思いを、これからもいろんな人からたくさん聞けたらいいなと思います。

Aさんの話を聞いて、とても印象に残っていることがあります。それは、自分の考えをしっかりと持ち、人に流されないということです。私はよく人の意見に流されたり、自分の意見をもたず周りに合わせたりしてしまいます。でも、Aさんは自分が思ったことはきちんと伝え、何を言われてもそのことを曲げることはありません。

これから先、どんなことがあるかはわかりませんが、私もAさんの生き方に倣い、自分に自信を持って周りに簡単に流されることのない生き方をしていきたいと思いました。